

## 被災地派遣レポート〈第46回〉

環境局多摩環境事務所環境改善課 藤間 夏子さん

平成24年2月1日から3月31日までの間、福島県県中地方振興局県民環境部環境課に派遣されました。派遣期間中の活動について報告します。

県中地方振興局県民環境部は臨時職員も含めて20名の職場です。県民生活課と環境課の2課の構成で、県民生活課は東日本大震災の折には災害対策の中核として活躍されたと伺いました。私が所属していた環境課は大気汚染、水質汚濁などの環境の業務と廃棄物対策の業務が通常業務で、それに加え震災以来の放射線測定や除染についても担当しています。

私は本庁に異動になった職員の穴埋めとして、その方が担当していた地球温暖化防止に関する業務、条例の届出等に関する業務と、新たに業務となった放射線測定のデータ情報の管理、線量低減化活動の補助金申請の書類の審査などを行いました。

印象深かったのは、やはり担当したことのない放射線測定と除染に関することでした。放射能測定のスキームは現在はかなり整理されていて、データも体系的に蓄積されてきていますが、それまでかなりのご苦労があったと察せられます。郡山は福島県でも放射線量が高い方で、庁舎前で放射線量測定していると、「今日はどれくらいある？」とよく聞かれ、関心の高さを感じました。早く除染が進んで、高線量の地域が少なくなることを願っています。

また、子供たちの通学路を地域住民で除染するという線量低減化活動についてですが、子供が小さい母親が被爆して、子供に悪影響を与えたら・・・という意見がインターネットに掲載されたりしていました。活動を担当する市町村の並々ならぬご苦労に本当に頭が下がりました。

福島県職員の方が、穏やかに冷静に、誠意を尽くして被災者に対応している姿を見て、非常時における姿勢を学ばせていただいたと思います。

これから何かで福島につながりを持って行きたいと思うのと同時に、まだ福島に行ったことがない方々に、是非現地に足を運んでいただいて、県民の方々が日々頑張っている姿を見ていただきたいなあ、と思いました。



県中地方振興局（合同庁舎）正面



文部科学省で福島県内2700箇所に設置している、リアルタイム線量計の写真。太陽光パネルと電光表示板がある。文部科学省のホームページで、測定した数値を公開している。